

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：24521

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇全国学力・学習状況調査において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」児童の割合が高い状態を維持している。</p> <p>◇教研式 NRT の結果から、思考・判断・表現の観点が全校的に全国平均を上回っており、知識を適切に活用する素地がある。</p> <p>◇共通指標から、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」と回答した児童の割合が 94%と非常に高く、対話を通じて学びを深める素地が整っている。</p>
	<p>◇共通指標から、「人の意見を聞いて自分の考えを見直す(94%)」といった受容的な姿勢は高いものの、「自分の意見を進んで発信しようとしている」児童は、79.6%にとどまっている。</p> <p>◇共通指標から、「自分で計画を立てて勉強している(82.2%)」や「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している(78.2%)」といった項目は、全指標の中でも低い数値となっている。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇異学年交流や児童会活動を通じ、「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりしようとしている」割合が 90.2%と非常に高く、互いのよさを認め合う心理的安全性の高い土壌が形成されている。相互承認の感度を「仲の良さ」に留めず、「自分と違う意見について考える楽しさ」へと昇華させ、多様な他者との対話を通じて自分の考えを練り上げる経験をさらに積み重ねていく。</p>	
<p>「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力</p> <p>「聴く」「話す」力を基盤に、自らつながり学びを深めること</p>	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>研究副主題「子ども一人一人の主体性を大切にした多様な学びの実現」</p> <p>(1) 主体性を生む「見通し」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いを自分事として捉えるためのしかけと見通しをもつための活動</li> <li>(2) 多様な学びの場、多様な対話</li> <li>・五感を働かせる多様な学びの場の設定や必要感のある対話活動の工夫</li> <li>(3) 学びの過程を重視した振り返り</li> <li>・結果ではなく「伸びや変化」に着目した自己評価・相互評価・教師の価値付け</li> </ul>
	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) さっぽろっ子サミットと新しい学校づくりの連動</p> <p>義務教育学校の開校に向け、中学生と共に「理想の学校づくり」について児童・生徒の思いを吸い上げたり議論したりする場を設定し、自己有用感を高める。</p> <p>(2) 学びの自立の達成に向けた取組</p> <p>「学びの自立」に向けて、「プラスのまほう」を活用しながら、家庭学習と授業との往還を意識すること、学びの過程や学びに向かう姿を価値付けることを家庭と共有し日常化していく。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p>	
<p>◇考えを即時に共有し、対話を充実させるための手段としての ICT 活用、調べた情報を整理・分析しそこから自分の考えをもつための手段としての ICT 活用、自分の調べたことや考えたことを相手に論理的に伝えたり、思いを豊かに表現したりするための手段としての ICT 活用を進める。使う目的を児童自身が理解した上で、使うかどうかや使い方を選択・判断する力を段階的に養う。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

